

# 2019 年度事業報告書

## ◎はじめに

19 年度は東京おひとり様会を合同会社に委託運営するのを止め、弊社の直営としたことで、北海道同様の低廉な会費に下げることができました。遠隔運営ですが、お客様にメールアドレス必須としたことで問い合わせも会報誌発行もインターネットで済ませることが可能となっています。また、コロナによる人々の社会活動の制限を受け、すぐにインターネット上で独身者対象のアンケートを実施したところ多くの回答を得られました。マスコミでも取り上げられています。多様に存在する IT システムをうまく活用しながら、人々に必要なサービスを構築できたと感じます。

事務所コストを下げるため、市民活動プラザ星園に移転しました。

ボランティアニーズのマッチング事業や孤独死防止サービスは新規展開に至りませんでした。次年度の課題といたします。

## 1. ボランティアニーズマッチング

### A. 月刊ボラナビ

- ・ 札幌市内近郊の市民団体や障がいのある個人のボランティア募集情報を掲載した無料誌です。4月号～3月号(248-259号)を発行しました。毎月の部数は15,000部でした。無料掲載したボランティア情報は16(前年比4減)、有料掲載したNPO情報は46(前年比11増)でした。紙面構成は、無料ボランティア・イベント情報、有料情報(NPO/一般社団・組合・学校法人等の非営利法人/企業・行政)、NPOの法務と税務の疑問に専門家が答える「NPOの?(ハテナ)」です。
- ・ 今年度は月刊ボラナビ発行に対し、さぼーとほっと基金助成があり、印刷費に活用させていただきました。

### B. ボラナビ・サーチなど(インターネット広報)

- ・ 検索サイト「ボラナビ・サーチ」と、メール通知機能「ボラナビ・アラート」を備えた北海道のボランティア総合サイトです。検索語句「北海道 ボランティア」では、マイクロソフト BING で 10 位でしたが、グーグル、ヤフーでは 10 位以下となりました。グーグルでは非営利プログラムを活用した広告掲出の効果があり、検索画面の上部に表示されるケースがあります。アクセスは、月間 PV11 万(2 月)～19 万(9 月)を推移し、一日当たり訪問者は 4 月を除き 1000 を越えました。サーチは 3 月末時点で 3635 件(昨年 3424 から 181 件増加)の情報が登録されています。アラートの登録数は 276(新規登録 23 件、昨年比 10 減)です。

## C. 市民活動団体支援

- ・ セルフヘルプの輪は、北海道で活動する自助グループのリンク集です。3月末で67団体を掲載しています。
- ・ 出張芸は、福祉施設を芸でボランティアとして慰問する個人や団体のコーナーです。3月末で44人・団体を掲載しています(今年度の新規登録は4団体)。
- ・ 北海道お茶の間めぐりは、地域の居場所づくりの取り組みを特集するコーナーです。札幌市社会福祉協議会さまの協力により、およそ700件の情報を登録しています。

## 2. おひとり様会

### A. 概要

- ・ 20歳以上の独身者を対象にした会員制事業で、独身者の孤立防止と課題解決を目的としています。毎月の会報誌「しゃぼん玉ノート」で会員さまの経験や想いを共有し、直接会員さま同士がお会いできる交流会やオフ会を企画しています。2011年にスタートしました。月会費1980円(年会費なら2万円)です。
- ・ 2017年11月にスタートした東京おひとり様会を、合同会社に委託運営から19年度6月から弊社直営に変え、会費8千円を6月から4980円、10月から北海道と同額1980円にしました。
- ・ 2019年6月より、北海道と東京で、非会員様で交流会体験希望の方を無料で受け入れています。
- ・ おひとり様会の会員さま数は、今年度スタート時は212人(北海道177人、東京35人)、年度末は197人(北海道168人、東京29人)でした。
- ・ オフ会と交流会を72回(北海道56回、東京16回)開催し、参加はのべ1414人(北海道1147人、東京267人)でした。これにより、初年2011~2019年度累計で、オフ会と交流会開催数758回 参加者10,601人となりました。
- ・ 東京は7月号より会報誌をメール配信のみとしました。北海道は1月号から可能な方には会報誌をメール配信しています。
- ・ 3月19日より、おひとり様会サイトで独身の方に対するコロナの影響についてアンケートを始めました。年度末日までの12日間で106人の回答があり、その後も増えています。アンケート結果。アンケートはコロナウィルスによる社会的な影響が薄れた頃に終了予定です。
- ・ 2020年2月後半よりコロナウィルスの影響で交流会への参加者は減りましたが、お話しされる方同士の距離をとるために各グループの間隔を広げたり、常時、窓を開けて換気したり対策をとりながら開催しました。
- ・ 東京では、交流会後に非会員様も参加できる二次交流会を当日いらしている会員様有志主宰で開くようにしました。
- ・ おひとり様会サイトのアクセスアップを目指すSEO対策の一環で、ブログをスタートし、計17記事をアップしました。

B. マスコミ掲載や視察受入

- ・ 2019年3月 栃木県宇都宮市「市政研究センター論文」。
- ・ 2019年4月 一般財団法人社会変革推進機構さまが来訪。高齢者の社会的孤立を防止するサービスとしてヒアリング。
- ・ 2019年5月27日 北海道新聞朝刊「緩やかに友人つくれる仕組みを」
- ・ 2019年6月29日 東京新聞朝刊「情報コーナー」
- ・ 2019年8月10日 読売新聞社会部 書籍「孤絶 -家族内事件」
- ・ 2019年11月26日 インターネットテレビ報道番組「Abema Prime」
- ・ 2020年3月31日 北海道新聞朝刊「コロナ 不安高まる独身者」

C. 北海道おひとり様会

- ・ 会員様が交流する交流会やオフ会を56回(事務局49回、会員様有志7回)実施しました。
- ・ 会員様同士の個別交流をサポートする「転送サービス」の総利用数は43でした。

D. 東京おひとり様会

- ・ 会員様が交流する交流会やオフ会を16回(事務局14回、会員様有志2回)実施しました。
- ・ 10月の交流会は、台風で当日の公共交通中止計画が発表されたことと、スタッフが東京に向かう飛行機も欠航となったため中止しました。
- ・ 会員様同士の個別交流をサポートする「転送サービス」の総利用数は2件でした。

3. 孤独死防止サービス事業

- ・ 孤独死防止サービスは、週に一度、希望者に弊社の無人電話に連絡をしてもらい、その着信記録をメールで確認します(NTT東日本のひかり電話「着信お知らせメール」を利用)。利用者と連絡がつかない場合は、各利用者が事前に登録する、別居の家族や大家等、緊急連絡先者に弊社から連絡します。利用者に対する実際の安否確認行動は、各利用者の緊急連絡先者が行なうため、札幌市に所在する弊社が全国の方を対象にサービス提供できる仕組みです。
- ・ 2019年度も昨年度に引き続き年賀寄附金助成を受けて事業を実施しました。登録者は期末時点で25人、新規登録が11人利用停止された方が2人でした。
- ・ 孤独死に関する11の優れた記事を見つけることができ紹介しました。
- ・ 札幌市に後援依頼を出し、認められました。
- ・ 北海道の釧路工業高等専門学校教授に、孤独死防止サービスを永続的に続けるためにアプリ開発について相談しました。
- ・ 「孤独死防止サービス」が日本郵便年賀寄付金配分事業の活用事例に紹介されました。

以上